

ソーシャル・キャピタルは健康と幸福度を高めるか

——川崎市地域包括ケアシステムの場合——

東京大学 赤川学

【1 目的】

社会疫学分野では、主観的健康感や幸福感を左右する要因として、個人レベルのソーシャル・キャピタル（SC、個人が有するネットワークや信頼）と、地域・集団レベルの SC（隣人効果など、その地域に住むだけで生まれる効果）のどちらがどの程度、有効かに関する議論が盛んである。本報告では、2017 年 10 月から翌年 7 月にかけて実施した「川崎市の地域包括ケアシステムに関する市民意識・実態調査」をもとに、SC と主観的健康感・幸福感の関連について分析する。

【2 方法】

川崎市 7 区のうちからそれぞれ 4 地域、計 28 地域を選定し、地域別の分析を可能にするために 1 地域 200 人の無作為抽出を行った。その結果、2,457 票の調査票を回収した（有効回収率 44.8%）。これに対して重回帰分析、傾向スコア分析を行う。

【3 結果】

主観的健康感については、性別、互酬性、垂直ネットワークへの参加は有意な影響を持たない。主観的健康感を高める要因を標準偏回帰係数（ β ）の高い順に並べると、地域信頼、教育年数（学歴）、水平ネットワークへの参加、世帯収入となる。これらが高い人ほど、健康に満足している。

幸福感については、年齢、垂直ネットワークへの参加は有意な影響を持たない。また女性は男性よりも幸福感が高い。幸福感を高める要因を標準偏回帰係数（ β ）の高い順に並べると、地域信頼、世帯収入、教育年数（学歴）、水平ネットワークへの参加となる。これらが高い人ほど、幸福感が高い。

次いで、地域を信頼する確率、水平ネットワークに参加する傾向スコアを、年齢、性別、婚姻状態、世帯収入、教育年数、近所付き合い、子供の有無を用いて算出し、水平ネットワークに参加した 1022 人と、ニアレスト・ネイバー法で選ばれた水平ネットワークに参加しない対照群 899 人に関して、処置群における平均処置効果 (ATT) を計算した結果、主観的健康感については $t=2.911 (>1.96)$ 、幸福感については $t=2.075$ で統計的に有意。

次いで地域を信頼する 1326 人と地域を信頼しない対照群 787 人に関して、処置群における処置効果 (ATT) を計算した結果、主観的健康感については $t=3.829$ 、幸福感については $t=3.058$ で統計的に有意。

【4 結論】

社会関係資本のうち、地域信頼と水平的ネットワークへの参加は、主観的健康感と幸福感を高めることが確認された。また傾向スコア分析により、「水平ネットワークに参加するから／地域を信頼するから、主観的健康感が高くなる／幸福感が高くなる」と因果推論できる。